

トモエ肥連 全関東東海・埼玉・千葉拡販推進部会研修会 in 愛知（東三河地区）

寒風吹きすさぶ2月7～8日、トモエ肥連 全関東東海・千葉・埼玉地区の拡販推進部会研修会が愛知県の東三河地域（豊橋市、田原市）にて開催された。師定（株）に研修内容をコーディネート頂き、組合員・エムシー・ファータicom（株）、当社含め総勢38名が参加。一泊二日の研修を行った。

愛知県の東三河地区は、温暖な気候と豊川用水の恩恵、首都圏・京阪神の大都市圏の中間に位置する地理的条件を活かし、全国屈指の畑作農業地帯となっている。特に今回現地視察を行うキャベツ、キクにおいては、共に全国1位の出荷量を誇っている。研修1日目は、現地視察を行った。豊橋市のキャベツ圃場を2件訪問。1件目は、冬系中生キャベツ「そらと」の追肥にて「トモエ12号（N8-P7-K5、低度化成）」を2回使用頂いている農家へ訪問。同地では元肥から追肥まで白化成（特に高度化成）を主とした施肥が主流だが、トモエ化成はゆっくり効く事で流亡少なく、肥料成分の利用率高い。根張りも旺盛で長雨など悪天候時でも秀品率・収量の安定が期待できると評価頂いた。2件目は、元々ダイコン、ハクサイ、水稻等でトモエ化成を20年来使用頂いている農家に訪問した。特にダイコンにおいては、天候に左右されない肥効が砂地にも使い易く、根と葉の生育バランスが良い為、市場、仲買からも高評価を得ているとの事。今回初めて冬採り晩生キャベツ「りくと」の元肥にて「肥実効477-10号（14-7-7、ノンコーティング緩効性肥料）」を使用された。トモエ化成は他の肥料に比べ多少高価ながらも品質・歩留まりを考慮すると十分な費用対効果が見込める為、キャベツでもご使用頂けるようになった。



次に田原市まで移動し、キクの施設圃場を2件訪問。現地における慣行栽培では有機入りペレット肥料による分施型の栽培方法を推奨しているようだが、追肥の手間がかかること、年によって追肥のタイミングが難しいとの現場の声があがっている。今回、有機は入っていないが省力・秀品率向上を目的として「ダイヤロン688（16-8-8、ノンコーティング緩効性肥料）」を夏キクに使用頂いた2圃場を視察した。1件目、2件目共に、夏キクでは特に後半の安定した肥効が見られ茎が太く1株当たりの重量増加となり、秀品率も向上したとの事。秋冬キクについては同品に加え微量要素肥料と併用して更なる増収を目指されている。

（次ページへ続く）

2日目は、ホテルの会議室にて座学研修を行った。まず始めに師定(株)高松社長より、東三河地区における農業概況説明含めご挨拶頂き、次にエムシー・ファーターコム(株)技術普及グループより、1日目の視察圃場における設営の経緯から現状の試験進捗状況、今回キクの圃場で使用頂いた「ダイヤロン」の特長と優良事例、その他製品の平成28年度優良事例について説明があり盛況の内に閉会した。国内随一のキャベツ・キクの産地である豊橋市・田原市の現地視察、有用な試験事例も学習でき充実した研修であった。(名古屋支店)

環境に配慮した肥料設計で水稻・野菜を生産

滋賀県農業法人「有限会社オカムラ農産」

当社特約店の滋賀県湖南市・園田商事(株)が取引されている、甲賀市「有限会社オカムラ農産」を訪問した。滋賀県は日本列島のほぼ中央に位置し、中央には総面積の6分1を占める我が国最大の淡水湖・琵琶湖があり、四囲の山々を源とする大小120余りの河川が穀倉地帯を潤し湖に注いでいる。気候は、南部が太平洋型・東海型及び瀬戸内型、北部が日本海型・北陸型と対照的。こうした条件のもと、基幹作物の「近江米」・「近江牛」・「近江の茶」といった特産品を栽培している。県が推進している「環境こだわり農産物」認証を受けるには、以下4つの栽培基準をクリアする必要がある。

- 化学合成農薬の使用量を通常使用量の半分以下
- 化学肥料(窒素成分)を通常使用量の半分以下
- 泥水を流さないなど琵琶湖を始め環境にやさしい技術で栽培
- どのように栽培したかを記録する。

このように県は農産物のブランド化を推進している。そのような農業状況の中で、同社は、平成4年に設立、社長ご夫妻の他親戚の方と運営されている。主な栽培作物は、水稻を主力に麦・豆・軟弱野菜も手掛けている。水稻の栽培品種は多種に及び、コシヒカリ・夢ごこち・きぬむすめ・キヌヒカリ・LGCソフト・日本晴・ミルキークィーン等。また、酒米は山田錦・吟吹雪を栽培する。滋賀県の酒造組合によると前記2銘柄の他、玉栄・滋賀渡船6号が県内の蔵元では良く使われる模様。その他にもち米も栽培しており、多様多品種生産を行っている。また、一部で無農薬栽培にも挑戦している。お米は生産量の半分は自家精米で病院・福祉施設・学校給食等に直接販売し、玄米は園田商事(株)に全量販売しているとの事であった。野菜に関しては、白ネギ・白菜・キャベツ等を主に業務用に出荷している。特にキャベツについては、石川県金沢市に本社がある(株)ハチバン(8番らーめん)に採用され好評を得ているようだ。自社栽培面積は、約33ha内2haで野菜栽培をしている。請負も積極的に拡大しており、栽培面積は年々増えているとの事。同社の経営理念は、消費者の視点に立ち、環境に拘り昔ながらの農法を実践している。顔の見える販売先を重視し、県認証の「環境こだわり米」に力を入れており、当社が販売する肥料・園田商事(株)PB「こなん287」、スーパーハイエース等をご使用頂いている。地域全体で空散を実施しており、延べ1,000haにも及び同社も主体的にへりを飛ばす。若い方が生き生き仕事をしており、将来性があるオカムラ農産様を訪問できて滋賀県農業の明るい一面をうかがい知ることができた。(大阪支店)



暖かい日も増えてきて、日ごとに寒さが少し緩んできましたね。今年の桜の開花は平年並みとのこと。雪国の雪解けはまだ少し先になりそうですが、春が待ち遠しいです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>